

事例

小学校における食農教育の取組

福島県喜多方市

福島県喜多方市では、平成19（2007）年に市内の3つの小学校において全国で初めて、教科として農業科の授業を開始し、「総合的な学習の時間」の授業の中で実施されています。現在では市内の全ての小学校で行われており、全国的にも前例のない取組です。児童が実際に農業体験を行うことにより、生産者の顔が見えるようになり食品ロス削減の意識や地産地消の理解を深める契機となっています。

喜多方市立加納小学校の3年生以上の学年では、総合的な学習の授業（年間70時間）のうち35時間を農業科授業として実施しており、児童は農業科支援員の指導の下、稲作やジャガイモの栽培等を学んでいます。自らの手で苗の植付けから除草、収穫、販売までの一連の過程を経験することで、栽培することの難しさや楽しさを学ぶとともに、食の大切さを実感しています。また、小学校6年生が中心となり地域の住民の協力を得ながら、農業科ミュージアムも開設しています。本ミュージアムは、子供の農業体験や農業科授業を学習する場として、児童が自ら判断し表現ができるようにすることを目的に、児童が農具や授業で学んだことをまとめたパネル等を展示しています。

今後も、農作業の実体験の活動を重視した教育を展開し、子供たちの豊かな心、社交性、主体性等育成が図られる食育を進めていきます。



稲刈り体験



農業科ミュージアムの発表風景